

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	札幌山鼻グループホーム		
所在地	札幌市中央区南15条西13丁目2-18		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100937-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年よりグループホームの組織編制を行いました。昨年は各フロアの管理者が計画作成担当者も兼務しており、管理者業務と計画作成業務が混同しておりましたが、昨年12月より管理者業務と計画作成業務を精査し、ケアプランの充実を図る為、両フロアの管理者を1名で行い、各フロアには計画作成担当者を設けました。現在、各フロアの計画作成担当者がご入居者様のプランまたは、日常の対応等職員の中心となっています。事業所においても、管理者が、中央区管理者連絡会の代表を行い、今まで交流の薄かった他グループホーム同士の交流を活発にし風通しの良い中央区とする為、施設見学を気軽に行えるよう取り組みを行っております。また、薬の管理の徹底として調剤薬局の変更を行い、調剤薬局による薬の在庫管理・セットまでを行って頂き、こちらでも再度チェックを行うよう変更しました。また、保管方法についても鍵付きキャビネットにて保管しています。グループホーム内の行事では、毎月外出行事を設け、近所の喫茶店に協力をして頂き、何度も利用させて頂いています。 また、9月には、初めての試みとして、施設内で敬老会を行うのではなく、地域のコミュニティーセンターを貸切、紅白幕等を使用し、ご家族様へも事前にお知らせを行い5組のご家族様と普段の服装と違い正装行ったほぼ全職員で盛大にお祝いを行うことができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市中央区内の静かな住宅地にあるグループホームで、市電の停留所から徒歩5分程度と近く、スーパーや銀行、商店などがある地区に位置している。建物は4階建てで3～4階がグループホームとなっている。室内には季節の装飾や風景写真などが飾られ、楽しく家庭的な雰囲気となっている。利用者同士や職員と利用者の会話も多く、明るい。普段から頻繁に散歩に出かけたり、食材の買い出しへの同行、町内会のごみ拾いへの参加など、利用者の日常的な外出の機会が持てている。また、花見や外食などの行事も豊富で、遠方への外出も実現している。職員同士のコミュニケーションも良好で、課題があれば話し合っ改善する仕組みができている。また、法人のバックアップ体制が整い、各種の書式やマニュアル、契約書類、研修などが整備されている。管理者がグループホーム管理者連絡会の区の代表として参加するなど、市との協力・連携も十分である。過去の外部評価結果についても真摯に受け止め、運営推進会議のテーマ設定、アセスメントシートの書式の改善などに積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(3F太陽アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付きやすい所に理念をを掲示している。職員は「とも・楽しく・すこやかに」を頭におき、ケアを提供するだけでなく生活を支える一員として一緒に行動をしている。	ホーム独自の理念「ともに・たのしく・すこやかに」の「ともに」の中に地域とのつながりを大切するという思いを込めており、職員もそのように理解している。理念は共有部分に掲示され、職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入をしており、地域の夏祭りに参加をしている。また、事業所の夏祭りや敬老会では地域のボランティアさんと呼ぶなどし顔なじみの関係が出来ている。	週1回の町内のごみ拾いに利用者と共に参加しており、その際や散歩の際に住民と交流している。地域の老人クラブの会合に参加したり、ホームの敬老会や夏祭りに地域の方を招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブや地域の催し物に積極的に参加し認知症の方の理解を深めていると共に地域の方々のご家族、知り合いのお困りの相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。参加される家族は少ないが普段の取り組みの報告をし意見を頂いている。また、会議録は全家族に送付をしている。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員や町内会役員、商店主、家族代表、利用者などの参加を得て、活動報告や行事、法改正、認知症研修などのテーマで意見交換している。また、議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員には2ヶ月に一度の運営推進会議に参加していただき、区役所職員には定期的に来訪していただき、市の職員には札幌市管理者連絡会にて情報を伝え協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、管理者はグループホーム管理者連絡会の区の代表として参加し、行政と連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという共通意識を職員一同が持っている。研修や身体拘束防止の掲示物で周知されている。安全性の確保の為、エレベーターの鍵掛はやむをえず行っている。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルが整備され、法人内の研修会や外部研修、内部研修で学習している。1階玄関は日中は施錠していない。3階からエレベーターには乗れないが、3階と4階の行き来は自由であり、4階からは玄関へのエレベーターに乗ることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加と内部での伝達研修を行い高齢者の虐待防止について定期的に学ぶ機会を設けている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方はいない。そのため、現在は研修など行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明しており、質問には丁寧に答えし、理解、納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター横に意見箱を置いている。また、契約時には第三者機関への苦情申し立てが出来る事を説明している。	介護計画見直し時に家族に意見を聞いている。2か月毎にホーム便りを送付し、情報を提供している。一方、家族から得られた意見や要望をノートにまとめたり、法人のグループホームで家族アンケートを実施する取り組みは行っていない。	家族から得られた意見や要望をノートにまとめたり、法人のグループホームで家族アンケートを実施することを検討中であり、その取り組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホーム会議行い運営状況、本社からの伝達事項、意見交換を行っている。	職員は毎月1回の会議で活発に意見交換している。定期的な個別面談はないが、何かあれば管理者が都度相談に乗っている。職員は、備品管理やパソコン、装飾、行事、防災、オムツ管理などの役割を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「こころのケアなんでも相談」にて面接、電話相談のカウンセリングを行っている。給与水準を毎年上げて向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内部・外部研修受講体制を整えている。また必要に応じてフロア会議内で職員の困りごとに対しての講習や話し合いの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会への参加や社内のグループホーム研修へ出来るだけ多くの職員に参加してもらい交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学を行っていただいたり、実際に来る事ができない方へはこちらから訪問し本人の困りごとを聞き今後の生活について十分話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さまのみの面談や電話での相談を受け付けている。サービス利用をする不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め、市町村独自のサービスの利用も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の一人ひとりの生活歴を大事にし得意な事、出来る事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回ふれあい便りの送付や来訪時に日々の様子をお伝えしている。また家族から本人の昔の様子をお聞きしケアに活かせるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望された所へ自由に電話が掛けれるよう支援している。また、友人の来訪時には、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮を行っている。	知人や友人が来訪するほか、電話や手紙のやりとりを支援している。馴染みの理容室の利用を支援したり、ギターの弦などの買い物に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室でゆっくりくつろげる様、座る場所に配慮している。職員は利用者同士の関係性が良くなるようフロア会議で話し合いをし支援をするよう務めている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の希望、要望に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を決め担当職員は入居者の代弁者になれるよう生活の中での会話や表情を介護記録に残し、カンファレンス等で話し合いを行っている。	言葉で思いや意向を表出できない方でも、表情や仕草から意向を把握しており、各種のアセスメントシートや基本情報表、生活背景調査票を整備して情報を蓄積し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活背景調査票の記入をお願いしたり、本人や家族、友人から話を伺い生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行い、普段と違う様子が見られた時は申し送りで把握に努めている。また管理日誌でも入居者全員の様子が分かるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの想いを大切に出来るようアセスメントを行い、定期的にカンファレンスを行っている。居室担当の職員は入居者の代弁者としてモニタリングを行ってもらっている。	介護計画は3か月毎に見直ししている。見直し時は計画作成者が事後評価を行い、カンファレンスで他の職員の意見を集約して、次の計画を作成している。日々の記録の他に、計画評価表で計画内容の実践度合いをチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は時系列に沿って入居者の様子や会話の内容を記入し申し送りで情報を共有出来るようにしている。また職員全員が入居者の日々の様子が把握できるよう管理日誌を付けケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化に伴いご家族様同行の定期受診をグループホームでの定期往診に切り替える等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへの買物や訪問美容の利用が出来るよう支援している。また、2階にあるデイサービスと夏祭りを行ったり、カラオケ大会等に参加させてもらい楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関へ受診できるよう家族に同行を依頼したり、職員が同行をしている。	協力医療機関による週1回の往診を受けており、各ユニット隔週で受診している。その他の通院は原則、家族対応としているがホームでも通院を支援している。また、受診内容を「受診・往診記録」に記載して家族に報告している。	

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週一回勤務し入居者の健康状態を把握している。また入居者の日々の暮らしの変化の情報を共有し職員が相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時には、病院関係者へ必要な情報を提供できるようにし入居者が入院時に困らないよう配慮している。また、退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員で共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向があれば看取りが行えるよう家族、職員、看護師、往診医と情報を共有している。必要に応じて家族との話し合いを行っている。また、看取りケアの研修に多くの職員が参加している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印をもらっている。過去に看取りを行った経験もあり、職員も看取りケアの研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には看護職員、管理者への連絡体制を整えている。マニュアルをスタッフルームに掲示をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練を実施している。また、外部研修での救急救命訓練の受講を行っている。	年2回を目安に避難訓練を計画しているが、今年度は未実施で、救急救命訓練の受講は一部の職員にとどまっている。災害時に必要な水や食料は準備されている。	計画中の避難訓練について、年2回、昼夜を想定し、地域住民の協力も仰いで訓練の実施を期待したい。また、職員全員の定期的な救急救命訓練の受講も期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修をおこなっている。入居者の人格を尊重しさり気なく介助を行うようにしている。	ケアにおける「NGワード集」を作成して、言葉使いに配慮している。名前は「さん」付けとし、気になる言葉使いがあれば、その都度管理者が指導している。記録書類は、事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や返答能力に応じた言葉掛けを行い自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、買物や散歩など一人ひとりの意向を聞き、思い思いの時間が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に本人に好きな服を選んでもらえるよう支援している。また、イベント時には家族の意向を聴きおしゃれが出来るよう支援している。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入に入居者と出掛けたり、調理、盛り付け、片付けを入居者と一緒に行っている。また入居者一人ひとりの食事の好みや注意事項を台所に掲示している。	献立は、利用者の好みに配慮しながら、給食委員会で作成している。米とぎなどの下準備から後片づけまで、利用者と一緒に行っている。事業所前でバーベキューをしたり、レストランや場外卸市場、近隣の食事処などへ外食に出かける機会も多い。検食している職員はいるが、利用者と一緒には食べていない。	検食も利用者と同じ食卓で行い、味付けや硬さなどを話題に、一緒に楽しく食事が出来るように期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会を構成しバランスの良い食事になるよう話し合っている。また、温度板には食事・水分摂取量、体重を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の能力に応じて、声掛けや出来ない部分の介助を行っている。寝る前は特に丁寧に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが分かるよう排泄チェック表を使っている。出来るだけトイレで排泄が出来るよう声掛けや誘導を行っている。	自立している利用者がトイレに行く時も同行して、パット交換などを支援している。トイレ誘導は、他者にわからないような声かけに配慮しているが、利用者に応じて、聞き取りやすい大きな声になる場合もある。日中はトイレでの排泄を支援し、オムツの使用は夜間のみになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や水分補給を促したり、体操や散歩などで身体を動かしてもらい便秘予防を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ香りを楽しんでもらったり季節の装飾をし楽しんでもらっている。最低、週2回入浴が出来るよう、声掛けに工夫をしている。	利用者の希望に応じた同性介助や時間帯、湯温などに配慮しながら、その日のスケジュールに応じて、日曜日以外の午前や午後で週2回以上入浴できるように支援している。見守りや二人介助での入浴も行っている。入浴を拒否する場合は、声かけする職員や時間帯を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は出来るだけ活動的に過ごせるよう散歩やレクリエーションの声掛けを行っている。また、夜間は無理な臥床の声掛けは行わず、眠くなるまで一緒に過ごし眠れない不安感を抱かないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書や薬の説明書確認を行い、わからない事があれば、看護職員や薬剤師に説明をしていた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、出来そうな事をカンファレンスで話し合い、新たな役割作りが出来るよう支援している。また、散歩やレクを楽しんでもらえるよう支援している。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F 太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や入居者の希望があれば出来るだけ希望に沿って散歩や買物へ出掛けしている。また年に数回の外出行事では入居者の意向を取り入れている。	冬季以外の天気の良い日は、車椅子利用者も一緒に近隣を散歩したり公園に出かけている。食材の買い物にも一緒に出かけている。お花見や紅葉狩り、雪まつり見学など、月2回程度の外出行事を行っている。地域のコミュニティーセンターに出かけて、家族と一緒に敬老会なども行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の力量に応じて、本人に管理を任せている。また、本人の希望時に買物に付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が好きな時に電話が使えるよう談話室から見える場所に電話機を置いている。希望時には電話を掛けられるよう支援している。手紙や年賀状が出来るようお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や廊下などに季節を感じられる装飾をしている。入居者の好みに合わせたCDを流したり、温度や湿度調整を行い快適に過ごせるように務めている。	居間と食堂には、大きな窓から自然光が入り明るい空間になっている。居間の壁には、ハロウィンなどの季節を意識した装飾が程よく飾られている。居室入り口の壁には、各利用者の作品や写真を飾るなど、馴染みのある環境で落ち付いて過ごせるように配慮している。出入り口に階段のある浴室には、スロープを備えて車椅子でも簡単に出入りできるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、みんなで座れるソファを置き自由に過ごせるようにしている。また玄関先にもベンチがあり天気の良い時は日向ぼっこを楽しめるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや椅子、鏡など今まで使用していた持ち物を持ち込み使用していただいている。また、入居時の家具の配置は本人や家族と相談し行っている。	広い居室には、クローゼットが備え付けられており、希望に応じてベッドも使えるように準備している。床には、好みの絨毯を敷いてソファやテーブル、机などを配置して、テレビやぬり絵などを楽しんでいる利用者もいる。使い慣れた三面鏡やベッドなどを持ち込んだり、家族の写真を飾り、落ち着いて過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ、風呂場などに分かるように表れを付けている。毎日の掃除の時に混乱や転倒を招く物がないかチェックしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	札幌山鼻グループホーム		
所在地	札幌市中央区南15条西13丁目2-18		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100937-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「3F 太陽ユニット」に同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(4Fひまわりアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに・楽しく・すこやかに」という理念のもと、地域に根付いた真心のこもったサービスを目指している。理念を事務所に提示している。ほぼ職員全員周知している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、老人会やお祭りなどに参加している。また、地域の清掃活動を週に1回行っている。「子供110番の家」に登録し、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の夏祭りなどに地域の方にも参加していたり、町内会・老人会など共に楽しく交流を図りながら認知症の症状や支援方法を伝え、理解が深まるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行っているが、ご家族の参加が少なく、意見をサービス向上に活かしているとは言えない。会議録は、ご家族に郵送し会議の様子をお知らせしている。12月は運営推進会議で往診医の協力をいただき、認知症研修会を開催予定。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、中央区管理者連絡会代表を行い、札幌市管理者連絡会にも参加し、積極的に他GHと交流を行っている。また、今年度より任意ではあるが中央区内のGH同士のスタッフが気軽に他のGHへの見学を行える体制を作った。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを行ない、身体拘束に関する勉強を行っている。身体拘束委員会を開催したり、外部研修後に内部で報告研修を行ない、職員全員が身体拘束をしないケアを実践している。夜間は防犯のため玄関の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行ない、職員全員が理解し丁寧なケアの実践に結びつくよう取り組んでいるが、常に意識をしていないと、言葉掛けなどが強い口調になる場合が時折みられる。常に全職員の丁寧な言葉掛けを行っていきたい。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用し、社協の支援員による振込み業務を活用している。職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が無い為、研修などを行い、もっと活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み上げ、説明を行っている。質問には丁寧に答えし、理解・納得を図り同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員はご家族の訪問時やお電話などで、気軽に意見・要望・相談をしていただけるようコミュニケーションをとっている。契約時には第3機関へ苦情申し立てができることを説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を月1回行い、意見交換や伝達などを行っている。また職員は意見や提案など、都度、管理者に直接伝えることもしている。管理者へ言いづらい・言えない事についても、各フロアに本部長・エリア統轄の連絡先を掲示しており対応できる仕組みがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は賞与前に、管理者・エリア統轄・本部長による評価が行われ、賞与に反映される。職員には経験加算・能力加算を設けているが、内容について知る機会が無い為、向上心を持って働ける環境作りを行う必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・北海道内の事業所全体での研修・市内3ヶ所の系列GHの合同研修など様々な研修に参加している。研修参加者は会議の際に伝達研修を行ない、職員全員の周知・ケアの向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会に参加し、今年度は、代表を務めている。スタッフ研修には職員も参加し、同業者と交流を図っている。現在、GH見学交流会の取り組みを進めている。(当事業所の見学交流はまだである。)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者・計画作成がご自宅を訪問したり、事務所で面談を行うなど、できるだけ多くの情報を引き出し、困り事・不安・要望を把握できるよう努めている。また、相談しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご希望があれば、いつでもご家族から相談いただける体勢をとっており、またいつでも面会や問い合わせのできる、風通しの良い関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とお話する中で、まず必要な支援を見極め、地域資源を含めたサービスの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を常に意識し、出来ることはご本人が行い、出来ないことの手助けを行うようにしている。また、定期的にカンファレンスを行い、ADLやIADLの状態に応じて、対応の変更を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際は、ご家族に参加していただいたり、普段の面会やお電話など、ご家族との絆を大切にしている。また、体調の変化の際は医師を交え、ご家族と一緒に今後の検討を行い、共に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の利用、友人の訪問や電話連絡、遠方の親戚との手紙や電話での近況報告、趣味の物を購入するための買い物外出などご家族の協力をいただきながら、ご要望にそえるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのお好みの過ごし方を尊重しながら、談話室で過ごされたり、家事をされる時などは職員が関わり、良い関係が築けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去になったかたのご家族へ、お電話で状況などをお伺いしてる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、自己決定できるよう支援している。困難な場合は生活歴・アセスメントをもとに、良い方法などを検討し、本人の思いや意向を把握できるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族のお話の中から情報収集したり、これまでの様子・経過をケアマネジャーから情報提供してもらうなどし、日常生活に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活、その人が持てる力の発揮ができるよう、いろいろな視点からのアセスメントを行い、情報交換、カンファレンスし、その人の状態に合った生活が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	H24年6月から、介護計画の評価を毎日行い、3ヶ月に1度の個別カンファレンスで総括と今後の検討を行っている。この取り組みにより、職員は介護計画の内容を常に意識し、すべきケアが明確になり、介護計画書が活かされるようになった。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌に日中と夜間の状況や、気になった事などを記入し、職員が休日あけでも様子が掴めるよう工夫している。また、入浴・排便・リネン交換・生活状況記録・温度版を作成し、気になることをすぐに探し出せるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建物内にあるデイサービスと合同の夏祭りを行ったり、デイサービスの見学を行ったりしている。また、もう一つのユニットとも交流し、イベントを合同で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる話相手や、はた織り指導、老人クラブの利用、イベント時には町内会の方による踊りや、お祭りのお手伝いなど交流を図り、協力していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は、入居者の状態を把握し、ご家族への説明や相談にのっている。本人やご家族の気持ちを重視し、昼夜を問わず対応可能である。GHと医師との連携は良く取れている。看取りや研修にも関わっていただける。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専任の看護職員が週1回勤務し、入居者の健康管理・職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。また、必要な機能訓練を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護・看護添書を病院に提出し、病院と連絡を取ったり、病院に面会に行ったり、CWと連絡を取るなど情報交換を行っている。退院時は病院からの情報提供書を活用し、連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により、早いうちにご家族に考えておいてほしい事をお伝えし、医師を交え詳しい説明を行い、今後選択が必要になった場合の対応について、ご家族と一緒に検討している。また、職員は看取り研修を受け、理解を深める努力をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急研修を受けている。緊急時マニュアルを見やすい場所に配置している。しかしながら、全職員の実践力はまだ不十分である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、避難場所の確認や掲示をしている。自衛消防組織を編成している。また、災害時用の備品の保管を行なっている。(飲料水・暖房器具・照明・タンク・電池・ガスボンベなど)		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛けの仕方などが、命令口調や荒くならないよう気をつけ、更衣介助や排泄介助などプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望などを話しやすいような対応に務めている。また、拒否があれば無理強いせず、必要なことは時間をずらして声掛けしたり、職員を替えたり工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うことを目指しているが、ある程度その日のスケジュールに沿って生活している。ADLが自立されている方は、それぞれ自由に過ごされることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意をはらい支援している。訪問美容を利用し、カット・パーマ・毛染めをお好みでされている。行事の際などは、お化粧の支援も行っている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会によりバランス良い献立作りを行っている。入居者と一緒に食材購入し、調理や盛り付け、食器洗浄を一緒に行っている。職員は昼食時のみ一緒に食事をとっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分量・食事量に注意をはらっている。一日の水分摂取量をチェックし、不足しないよう支援している。また嚥下の状態により、個別に食材の形状の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い、習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には毎食後職員が口腔ケアを行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内チェックと清掃を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLが低下し、車椅子や立ち上がり困難な方も、日中はトイレにお連れし排泄介助を行っている。排泄量や時間を記録し、状態や能力に応じた最良の方法を、カンファレンス時に検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便の状態などを把握している。人により医師の指示による薬の使用や、朝の牛乳・豆乳の摂取・砂糖の代わりにオリゴ糖使用・歩行や運動などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を行っている。基本的に曜日を決めて入浴しているが、体調などにより臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に休息していただいている。体調などにより、日中でもベッドで休めるよう配慮を行っている。また、居室担当者により定期的にリネン交換し、清潔な環境で気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年、調剤薬局を変更。薬の管理を担ってもらうと供に、薬は鍵付きキャビネットに保管している。服薬の際、間違いが無いよう職員がさらに確認している。受診報告書・処方箋などはファイルに綴り、いつでも見ることができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事に参加していただいたり、地域の清掃や別ユニットの訪問、趣味の楽器や歌で他の入居者とともに楽しむ場を設けるなど、個々に応じた対応を行っている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日とはいかないが、できるだけ外気浴や散歩ができるよう努めている。また、ご家族の支援による買い物外出、行きつけの理容室の利用、散歩を行っている。行事で、お花見や公園散策、外食、地域のイベント参加など、外出の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金の所持や管理を行っていないが、現在2名ほど本人とご家族の要望により、現金を所持されている方がいる。必要なものを購入したり、美容院代の支払いなどに使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を自由に使用できる。電話の取次ぎや、職員がお声掛けして遠方の家族に電話をかけていただくなど配慮している。また、手紙を自由に出すことができる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には季節に応じた装飾を行っている。廊下には入居者の作品などを展示している。トイレや洗面所には場所の表示を行い、居室には表札や名前の表示を行って間違えないようにしている。テレビの音量や、日差しが強い時はカーテンで調節するなど不快のないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではそれぞれ楽しく過ごせるよう配慮している。入居者同士のトラブルには職員が間に入り対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人やご家族により、過ごしやすいよう配置を行っている。また、ご自宅からお好みの物や思い出の品などを、持参されている。ご家族が自由に居室の飾りつけなどをされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や談話室に手すりを設置。歩行の際危険がないよう、障害物を置かないようにしている。トイレ・浴室・洗面所・居室にナースコールを設置。場所の表示を行い、混乱を防いでいる。靴置き場には椅子を置き、安全に自分で靴を履く(脱ぐ)ことができる。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌山鼻グループホーム

作成日：平成 24年 11月 1日

市町村受理日：平成 24年 11月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	40	検食も利用者と同じ食卓で行い、味付けや硬さなどを話題に、一緒に楽しく食事が出来るようにできる。	ご入居者様・職員が同じ食卓を囲み、同じ食事を食べることで、提供した食事内容の味付けや硬さのお話をし、話題を作ると共に、一緒に食事を取ることでご入居者様のモデリングとなる。	現在、職員は持参したお弁当をご入居者様と一緒に食事は出来ている。検食については、一口の検食を行っているが、ご入居者様と一緒にの食卓では食べてはいない為、今後、一口の検食であってもご入居者様と共に食事し、話題作りを行う。	1カ月
2	10	家族から得られた意見や要望をノートにまとめたり、法人のグループホームで家族アンケートを実施することができる。	ご家族さんに定期的にアンケート実施が行える取り組みを行い、ご家族様から得られた意見・要望用の個人ノートを作成する。	札幌にある3事業所を巻き込み、定期的にアンケートを行う仕組みを作る。また、その際、返却場所は、グループホームとは違う場所に設けることでご家族様が率直な意見を言いやすい工夫を行う。事業所においてもご家族様が言われた内容を綴る個別ノートを作成する。	6カ月
3	35	計画中の避難訓練について、年2回、昼夜を想定し、地域住民の協力も仰いで訓練の実施を期待したい。また、職員全員の定期的な救急救命訓練の受講も行う。	地域住民を交えた避難訓練の実施を年2回行う。また、2～3年のサイクルで職員全員が救急救命訓練の受講を行えるようにする。	地域住民を交えた避難訓練実施の方法を他グループホームへお聞きし、参考にさせて頂き、実施に向け検討を行う。また、救急救命訓練を2～3年で職員全員が受講でき、繰り返し受講できるような体制作りを行う。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。